

## 8 「山・住」合同分科会 要旨

*San-En-Nanshin Summit 2012 in Higashimikawa*

「山・住」合同分科会では、「中山間地域の生活環境向上に繋がる、人・ものの交流促進」をテーマに意見交換がなされた。

コーディネーター	豊橋技術科学大学	教授	大貝 彰
報告者	くま遊楽亭 あそびや		大平 展子
行政	蒲郡市	市長	稲葉 正吉
	設楽町	町長	横山 光明
	飯田市	市長	牧野 光朗
	松川町	町長	深津 徹
	阿智村	村長	岡庭 一雄
	根羽村	村長	大久保 憲一
	売木村	村長	清水 秀樹
	豊丘村	村長	下平 喜隆
	大鹿村	村長	柳島 貞康
経済	森町商工会	会長	山本 充喜
	小坂井商工会	会長	丸山 登三雄
	津具商工会	会長	伊藤 武
	鳳来商工会	会長	片桐 幸信
住民	チェーンソーアート in 東栄	副理事長	工藤 和美
	ミナの森・にしうれ小学校	管理人	津ヶ谷 寛奈

(敬称略)

### はじめに 事務局

ただいまから「山・住」分科会を開会いたします。この会の運営につきましては、コーディネーターを豊橋技術科学大学の  
大貝彰教授にお願いして進めてまいります。

### コーディネーター / 豊橋技術科学大学 大貝教授

最初に、前年度のサミットの議論のまとめと今回のテーマについて説明をいただきます。続いて、くま遊楽亭あそびやの大平展子様から、「農家民宿くま遊楽亭あそびやの開業について」と題してご報告をい

たきます。これらを踏まえまして、「中山間地域の生活環境向上に繋がる、人・ものの交流促進」というテーマから、今後推進していく事業等についてご意見をいただきたいと思っております。



## 事務局

前年度の「山・住」合同分科会では、第期の重点プロジェクトの総括と第 期に向けての方向性を議論いたしました。

まとめると、「水資源、流域の防災」という課題は、中山間地域に人が住み続けることのできる環境をいかに維持・確保していくかという課題と直結しているということ。各地域の成功事例をもっと三遠南信地域全体で共有することが重要なテーマであるという二つにポイントが絞られました。

本日は、前年度の議論を引き継ぎ、さらに発展的な意見交換を行うために中山間地域の生活環境向上という点に焦点を当てたいと思います。

現在、三遠南信自動車道の一部供用開始など、上・下流域の交流をさらに緊密な段階へ進めるチャンスが生まれています。人、ものの交流を促進することで、中山間地域の生活環境を高めるために何ができるのか、その議論を行うため、「中山間地域の生活環境向上に繋がる、人・ものの交流促進」というテーマを設定いたしました。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

それでは「農家民宿くんま遊楽亭あそびやの開業について」と題して、くんま遊楽亭あそびやの大平展子様よりご報告をお願いいたします。

## 報告

### くんま遊楽亭あそびや 大平氏

この春、くんま遊楽亭を開業いたしました大平と申します。

高く澄んだ空に赤トンボが乱舞しています。台風にもめげず、けなげに立っている棚田の稲穂が重たく垂れ下がっています。そのような熊から参りました。

農家民宿を開業した理由は、三つありま

して、一つは、何とかしたい地域課題です。熊は東西南北に街道が通っていて、その昔、街道沿いには13軒の旅籠があり、江戸・明治時代には3、4万人の人たちが訪れたという話を聞きます。昭和30年、2,512人あった人口が昭和60年には1,205人と、半減してしまいました。何とかしようと村おこしを始め、25年が過ぎました。しかし、今も基幹産業の林業が衰退し、地域全体がどうしようもない閉塞感に満ちています。小さな石ですが、一石を投じてみたいと思いました。

次に、二つ目です。私は、嫁いで四十数年になりますが、その間に我が家では100人ほどのホームステイのお客様を受け入れておりました。8年ほど前から、NPO法人夢未来くんまでは、農家民宿の研修をしておりましたが、条例がないため実現しませんでした。しかし、去年の3月、県のガイドライン制定により、農林漁家による体験型民宿が認可されるようになりました。

三つ目は、夫の退職です。私たちは人とかかわりの中で生きていきたい、そして、輝きながら年老いたい、自分を高めるため生涯勉強をしていきたいと思っています。

私たちは、この民宿を開業するにあたり、あるがままで、我が家風でいこうと考えました。キーワードは「安らぎ、癒やし、絆」です。「日本のふるさと、忘れられた和、これを大切に」、これは、5月に宿泊されたオーストリア出身の女性、アリアーネさんが教えてくれた言葉でした。日本の生活スタイル、衣食住、これを大事にするようにと。そして、「水回りが清潔だから子供連れでも安心」とお客様から感想をいただいたこともありました。

この写真は、天竜東栄線から見た我が「あそびやの春」です。海拔500mの高地で、夏でもクーラーは要らないところです。

次の写真は、和風庭園を見ながらの浴室

です。兄弟民宿として去年の8月に開業した「たべや」のご主人と我が夫が手づくりで用意したログ風の風呂です。浴室も、脱衣所も手づくりです。

次は、畳と障子の客間です。奥が6畳、手前が8畳の二部屋です。当初、部屋の改装を考えていましたが、障子がいいということでそのままにしました。畳に布団を敷いて、部屋にかぎをかけない、これが我が家風のスタイルです。

交通アクセスは、浜松浜北 IC から40分です。公共交通機関では、遠鉄電車で新浜松駅から32分、そこから、くま水車の里行きのバスに乗ると47分で熊に着きます。くま水車の里へは私たちがお迎えに参ります。

私たちは、秋になると飯田までリンゴ狩りに行きます。三遠南信自動車道が全面開通すれば、熊から信州がとても近くなります。人の行き来もこれからはもっと盛んになるのではと期待しております。

この写真は5月。先ほどのアリアーネさんご夫妻が山菜採りや山菜のてんぷらを揚げながら、ご機嫌でお昼を召し上がっているところです。

次は、お客様が寄せ書き帳に、残してくれたメッセージです。「実家に帰ってきたような、何ともいえない安らぎを感じた」「ゆったりとした時間を使うって贅沢だなと感じた」「日本のおもてなしに出会えた」「5月5日『菖蒲湯、スーパームーン、筍の味噌汁』これは最高だった」「ウグイスの鳴き声で目覚めた」「これが本来の人の生活なのは・・・」「夕食後の会話が楽しく、夜遅くまで話し込んだ」。

私たちの農家民宿は共同調理が基本です。この間、テレビ放映されたのですが、その様子をごらんになった袋井の70代の方から「私は台所に立てない。お風呂のまき割りもできないけれど、どうしたらいいですか」

そんな電話がありました。その都度、臨機応変に一つずつ解決しながら、楽しくこの民宿を運営していきたいと思っております。

夢はどんどん膨らみます。「ピザ窯を造りお客さんに焼いてもらおうよ」とか、「炭焼き体験を長期滞在で『ワーキングホリデーで学生さんを受け入れたいな』それから『ツリーハウスもおもしろそうだね』等々です。

山間部ではイノシシやシカの害に困っています。冷凍庫に入りきれない程のイノシシやシカの肉があります。でも、これらは商品にはできないので、お客様に召し上がっていただくことができません。そこで、たべやのご主人と「二つの民宿で資格のある、そんな施設をつくりたいね」と言っております。そうすれば、シカのシチューとかボタン鍋だとか、いろいろな料理が食卓に並ぶことができると思います。

そして、「あそびや」「たべや」に加えて「のみや」といろいろな民宿が1軒、2軒、3軒と増えることによって、くま民宿村ができたら・・・と期待します。そうすれば、子供たちやいろいろな団体を受け入れることも可能になります。

くまに魅力を感じ、そこを移住地として選び、6年ほど前、長久手から引っ越しして熊に定住された「たべや」の水野さんたちは苦勞して農家の資格を取り、昨年1月には農家レストランを開業し、8月には農家民宿「たべや」を運営するまでに至りました。

このように、外から来られた方たちが熊で私たちを先導するように農家民宿を始めたり、あるいは起業されて地域を元気にする担い手になったり、そのような刺激が、中山間地域で生き生きと暮らせる仕組みづくりのきっかけになったら最高だと思います。

この写真は、初めてシイタケを採ったと

言う60代の仲良し3人組です。東京に持って帰ったシイタケをどのようにしてお料理すればいいのかとお電話をくださいました。

次の写真ですがこの笑顔がうれしいです。いつも、お帰りになるときにこの場で記念写真を撮らせていただいております。子供たちが伸び伸びと手を振って、「またね。」って私達に言っているような、そんな光景が思い出されます。寄せ書き帳には「また帰ってくるからね」とありました。「ただいま」とか「また来るよ」とのお客様からの言葉に、一つ一つの出会いをたいせつにしなければと思います。

私は、起業するに当たって、SENAのインキュベーション事業のご支援をいただきました。それまでに15回、片道30kmの道を浜松へ毎回通いながら、研修や仲間づくりをし、開業までの心得を学びました。「初期投資はなるべく抑えて」と言いながら、思い描いた以上の開業をさせていただくことができました。

私はこの民宿で、我が家の味、郷土料理を守りながら、お客様との交流を大切にしていきたいと思っています。一番のごちそうは、地元で採れた安心安全な野菜だと思っています。せめて野菜は家で採れたものをと心がけています。今、畑では大根や白菜が本葉を出し始めました。これからは鍋料理がメインです。

くんまでは、地域の活性化を目指し様々な取組をして参りました。今後、農家民宿が農家の副業として成り立つことを願っています。私たちは、この農家民宿によって元気をもらい、収入を得、お互いに助け合いながらこれからもずっと続けていこうと思っています。まだ始めて7カ月です。とても弱音を吐く、そんな気持ちにはなれませんが、一つずつ学んで一生懸命頑張っていきたいと思います。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

開業して7カ月ということですがけれども、民宿に来られるお客さんはどの辺から来られる方が多いのでしょうか。

### くま遊楽亭あそびや 大平氏

東京や大阪などが多いです。近場では浜松、豊橋、名古屋です。東京からお見えになるお客様が「今、掛川だよ」というのであと1時間半ぐらいかかるかなと思っていますと、1時間ぐらいで到着されます。新東名が開通して、本当に便利になりました。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

そういった方はどこで情報を得て来られるのでしょうか。

### くま遊楽亭あそびや 大平氏

一つにはホームページです。その他に、テレビ、新聞、雑誌、などです。あそびやも8月には民放で放映されました。1号店の「たべや」がこれらに数多く出させてもらっているものですから、「兄弟民宿のあそびや」の紹介によりいらっしゃるお客様もあります。

## 質問者

熊には阿多古川というきれいな川がありますが、民宿で川遊びをするなどの川の利用は考えていませんか。

### くま遊楽亭あそびや 大平氏

NPO法人夢未来くんまでは以前より子どもの水辺事業をしています。地区内にある4カ所の水辺(ほたるの里と熊平オートキャンプ場、水車の里と大栗安の棚田)を利用して子供たちに体験型の環境学習をしておりますが、その活動参加者もご宿泊さ

れました。

お客様から、溪流釣りのお問い合わせがよくありますので、紹介をしております。

### 質問者

開業される前は、大平さんたちも地元で林業とか農業をやっていたらっしゃったのですか。今、そういうものに取り組んでいる方はもともとの住民の人とよそから来られた方ではどちらが多いのでしょうか。

### くま遊楽亭あそびや 大平氏

農家民宿に関しては、現在、県下で3軒の登録です。1軒は熊にある「たべや」、それは長久手から引っ越して来た人です。2軒目は水窪にできました。そして、3軒目が我が「あそびや」です。我が家はもともと熊生まれ、熊育ちです。



### 意見交換

#### コーディネーター /

#### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ここから意見交換に移りたいと思います。それでは、まず、今回のテーマが「中山間地域の生活環境向上に繋がる、人・ものの交流促進」ということですので、その観点から、各団体で取り組まれている事例について、ご紹介をいただきたいと思います。

#### 売木村 清水村長

私の村では、「うるぎ米そだて隊」という

イベントを行っております。これは平成18年、農業体験イベントとして始まりました。当初、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等、単発で参加者を募集しましたが、参加者が集まらず中止する場合もありました。何か方法はないかと考え、年間を通じて募集いたしました。年間7回の体験メニューとして、皆勤した人には米を1俵、60キログラムを差し上げることとしました。それが受けたのか、定員30名に108名の応募がありました。もみまきから始まり、田植え、草取り、ヒエ取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀までの7回。ほかにシイタケの種入れ、ブルーベリー狩り、トウモロコシとり、ハチみつ収穫、そういうオプションも好評でした。

米1俵というのは、赤字覚悟でございますが、売木村に来てくれることにより、村が非常に身近になり、また、スタッフとも親しくなり、交流が広がっております。

その後、「うるぎ米そだて隊」を卒業した人には、売木から離れないように、2年目からは「てつだい隊」、また来てもらいたいということで「またき隊」、抽選に外れた人には「はずれ隊」といって、村に呼び込んでおります。今ではスタッフとなった人たちもあり、主催者側といたしましても、スタッフとして当てにしているという状況です。

赤字ということで、体験料を上げさせていただきましたが、毎回応募者が多く、定員も増やしております。売木村に来て交流してもらえる、そんなイベントでございます。

#### 大鹿村 柳島村長

大鹿村では、三遠南信のふるさと交流歌舞伎を通じた交流を行っております。平成6年より行われておりますが、南信州では大鹿村のみの参加でしたけれども、今回、

下條村さんにも参加していただくことになり、南信州としては、一つ幅が広がりました。

しかし、過去には、三遠南信の中にある多くの文化財、歌舞伎関係の方が参加をされていましたが、市町村合併により、自治体の援助がなくなってきたということで、参加団体が少なくなっていることが非常に残念です。合併して大きな力のある自治体になられたので、以前の小さな町村単位であった、そういう歌舞伎の保存会等の団体にぜひ援助をしていただいて、多くの方が参加できるように支援をお願いしていきたいと思っております。大鹿村の場合は大きな産業等がないものですから、このような文化財、それから、いろいろな形の地縁的な交流を盛んにすることによって、人の動き、ものの動きをもっと強くしていきたい、大きくしていきたいという考え方で交流を進めております。

もうひとつ、秋葉街道ですが、秋葉街道信遠ネットワークという団体がございます。旧街道を復活したりして、現在、浜松までの各場所でウォーキング大会を開いています。

大鹿村では、昨年、2回のウォーキング大会を行いました。外部から見られる方が多いのですが、総勢160人くらい参加されて、その旧街道を歩かれました。現在、この方々で焼酎を造るなど、いろいろな交流が続いています。

我が村では、このように人の交流を多くして、人、もの、宿泊等のお金の動きもよくしていきたいということで取り組んでいるところです。

### **根羽村 大久保村長**

根羽村は、愛知県豊田市のすぐ隣、矢作川の上流になります。私どもが地域を考えると、やはり川の上流、中流、下流と

いうのは非常に大事なポジションであると考えておりまして、比較的山の中の上流は、今、非常に厳しい社会現象の中で、人が住みにくくなっているとか人が少なくなっているのが現実でございます。上流に人が住まなくなるといことは、上流の地域社会が成り立たず、国土が荒れていくという形で、その流域が全部だめになってしまうのではないかと私どもは強く声を出して訴えています。

人が住み地域の営みが持続する社会をつくらないと、国土は保全できないというのが私どもの地域づくりの大前提です。山の中、上流に住むには、やはりそこに住み続けられるようなきちんとした生活の営みがなくてはなりません。その手段として、地域の資源である森林を活用して、そこに人が住み続けられる仕組みをつくること、さらに上流は水の原点でありますので、その資源環境を使って、そこに人が住み続けられる法則をいかにしてつくるかを考えるときに、やはり交流というのが非常に大きな部分を占めてきています。

そういった部分で、下流の皆さんに、今、上流の私たちはどんなことを考えて、どんなことをお願いしたいか、一緒になって地域をつくっていききたいかという情報をしっかり発信していく取り組みをしております。特に山についてはトータル林業で、私どもは木を使って、実際に安心・安全な家づくりをしっかりと外にPRして、それによって山で働く人が増え、地域の産業が成り立っていくという取り組み、あるいはきれいな水をつくるためには、多くの人の支援が必要というようなことで、下流の企業の皆さん、団体の皆さん、また、今は一般市民の皆さんがトラスト運動というような形で源流を守っていただく取り組みも始まるなど、そういった情報を発信し続けながら、地域をつくっているというのが現状でござ

います。

### 設楽町 横山町長

設楽町は豊川を通して東三河の最上流部にあるという位置づけの中から、従来から設楽ダムの建設という大きな課題事業がずっと40年近く続いてきているわけです。このダムをテーマにして、我々地域の人たちは自分たちの生活圏の中の保持ですとか、将来にわたっての安定した生活を営んでいくためにはどうしたらいいのか。また、東三河全体をとらえたときに、自分たちの役割はどのようなかというところを注視して今までずっと来ました。

その結果、やはり東三河にとってこの水は最大必要資源であり、大きな財産につながるものだという理解をして、このダムを推進していこうということになりました。

その背景には、やはり地域の住民たちが、上流で山林を守っていくことが、下流全体をとらえて、どう地域に影響を及ぼすのか、そこをきちんと明確にしていく必要があるかということから、一つのテーマとして、やはりこの森林をどうやって保全しながらきれいな水を生み出していか、そうした中に日常の生活の中でみんなの営みがどうつながっているかというところがありました。

下流域の方々が上流部の我々のほうに目を向けていただいております。そういう中で交流というものが生み出されてきました。例えば、分収育林にしようとか、下流域の方々に設楽町へ来ていただいて山の手入れに入ってもらおうとか。そして、かがやきの森という名前をつける中で、下流の地域たちが山の管理といったところへ視点を合わせて、それに向けて体験をしていただくとか、そのようなことをテーマに設楽町に来ていただく。

そして、一方で、我々は下流域のいろい

ろな行事に参加させていただく。そういうところで人との交流、絆が作り上げられていくということで、東三河地域全体で人と人との交流に力を注いでいるところでもあります。

今後、上流にいる人たちの潤い、そして、下流の人たちが生活するための安心につながっていくことが最大の大きなテーマとなることを期待して、こうしたことを中心とした交流を進めているところでもあります。

### 小坂井商工会 丸山会長

小坂井は2年前に豊川市と合併をしたわけですがけれども、その前は豊根村と姉妹提携みたいな交流をしておりました。年に1回、葵まつりというイベントをやるときに、山間部の特産品の販売等をお願いして、町おこし事業で交流を図ってまいりました。

昨年は、名鉄ギャラリーみたいなものを計画してくださり、非常ににぎやかで、持ってきた品が早く完売してしまったということもありました。今後ももっと、祭りのあるときなどにお互いの特産品を持ち寄ってPRすることが必要ではないかと思えます。今年は、10月14日に行いますが、山間部でなくても、この商工会として多くの商工会に参加を呼びかけて、特産品の販売と地域の交流を図っていきたいと思っております。

### ミナの森にしうれ小学校 津ヶ谷氏

水窪町で廃校になってしまった西浦小学校をお借りして、今、地域活性事業に取り組んでおりますミナの森の津ヶ谷です。

西浦小学校は、長野県境まで15分ほどというところで、浜松の中心部から75kmほどあります。廃校をお借りして事業を進めるに当たって、まずは観光を考えました。

人を呼びたいのですけれども、宣伝不足というのもあるのかもしれませんが、距離

が遠いとこんなにも人は来られないのだなとつくづくと感じています。

やはりそこに魅力がないと人は動かないと感じています。その魅力づくりのために、今回、水窪を舞台にした映画を作りました。浜松の町の中でも、「えっ、水窪、どこ」という方が結構いらっちゃって、まずは知っていただくということでした。

映画の効果がずっと続けばいいのですが、なかなかそこまでの力は映画にはないと監督から聞きまして、数年で人が来なくなってしまうのは、せっかくの地域おこしも地域おこしにならない。

私たちは、会社でこの学校を借りていますが、就業支援とか、フリースクールとかをやっている関係もあって、何とか雇用につなげたいという気持ちがあります。それには若い子たちを引き寄せるようなものがあるといいのではないかとということで、オリジナルキャラクターを作って、そこから商品開発なり、地域おこしなりをしていきたいと考えて取り組んでいます。方言の名前のついたキャラクターを作って、今、アニメーションを作るようにしています。

今回作った映画も、方言とかふるさとというのがキーワードになっておりますので、水窪弁がばりばりの映画になっています。そして、アニメーションでは方言というキャラクターが作られています。

そして、この廃校は、本当に地域の宝ですので、地域の皆さんにもとても印象がいいわけです。どこかの跡地を使ったというよりも、やはり廃校を使って何かをやっているという、皆さんの目を引きまします。興味を抱いてもらえます。

まだ1年で、これからこの廃校をどうやっていこうかと模索中です。今、地元の文化財との連携を通して、この小学校を拠点に何か人が動くことができないか検討しています。

このミナの森のプロジェクトは、よそから来た人がやるのはなかなか難しく、本当の地域おこしというのは、そこに住む人たちがやはりやっていかなければいけないと思っています。そこで、この映画の撮影があったことによって、水窪の商店街の若い世代の人たち、これからを担っていく代の人たちが、これをチャンスにということで、商品開発とかグループを作ってNPOを立ち上げて、もう一度観光を盛り上げようという動きになってきました。これが本物になっていくように、私たちも努力していきたいと思っています。

### 蒲郡市 稲葉市長

蒲郡市は、100%県水に依存している自己水源がない町でありまして、上流部である山間部の方とは親しく交流をしていかなければならないなと思っています。

そういった中で、市主体ではない交流事業を紹介させていただきます。

一つは、東三河のそれぞれの市町村の観光関係者がかかわっている東三河広域観光協議会という会がございますが、この東三河の8市町村をぐるっと回遊して、いろいろなおいしいグルメを食べていただくというメダルスタンプラリー「ぐるら+」という企画があります。それぞれの地域の地域性、いいところをお互いに認識しよう、共通意識を持とうとやらせていただいております。

もう一つは、東三河広域協議会と奥三河観光協議会の共同で実施をさせていただいております滞在型の体験事業「極・奥三河」です。滞在していろいろな技術を経験していただき、参加者の方に、そこに移り住んでもらうなり、定住してもらおうということをおこなう事業を通して実現していこうと取り組んでいます。



## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

今年の3月に、三遠南信自動車道の浜松いなさ北 IC から鳳来峡 IC まで一部供用開始になりましたし、新東名も御殿場 - 三ヶ日間が開通しました。具体的実感として、取り組みがさらに進んだ事例があればご報告してください。

### 設楽町 横山町長

設楽町では、三遠南信自動車道の身近なインターチェンジというのが鳳来峡 IC になります。車で40分から50分ぐらいかかりまして、まだアクセスの悪い道路なわけです。しかし、東栄町さん、豊根村さんから、三遠南信自動車道が鳳来峡 IC まで通じたことで、今までと比較して、はっきり分かるぐらいの人の流入が始まったとお聞きしております。東栄町さんや豊根村さんには温泉があります。そして、東栄町さんで行われる様々なイベントですとか、豊根村さんの花街道、茶臼山公園の芝桜の丘、そういうところへ多くの人たちの入り込みが始まったということです。

こうした一本の幹線道路ができることによって、人の動きというのは本当に大きく変わってくるとというのが如実にあらわれてきたという状況ではないかと思っております。

したがって、設楽町も、こういった幹線道路の整備というものが、やはりこれから人との交流、また物流、そういうものを活性化させるには、大きなテーマとか大きな要素であると理解しております。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

私も最近をよく、飯田に行く機会があります。高速道路で行くこともできますが、自宅が三ヶ日ですので、三ヶ日 IC から東名

高速に乗り、三ヶ日 JCT を通って、鳳来峡 IC まで行き、そこから国道151号ですが、従来に比べて30～40分は確実に短くなりました。私にとって、飯田は今、物凄く近くなっています。

豊根村に道の駅「豊根グリーンポート宮嶋」があります。そこで休憩する時に、今までほかの車をほとんど見かけませんでした。圧倒的に車が増えまして、名古屋ナンバーや結構遠いところのナンバーを見かけます。三遠南信自動車道を使って、国道151号をさらに上って、飯田方面まで行かれている方も結構いるのではないかなと思っています。

基盤が整備されることで、やはり交流というのはますます促進されていくのだろーと思えます。もちろん今、ご発言をいただいた具体的な取り組みというのは、この三遠南信自動車道が整備される前からそれぞれ皆さん工夫されて取り組まれてきたのだと思えます。

こういった取り組みをさらに活性化させて、この中山間地域の生活環境を向上させることに結びつけていくということが必要になってくるだろうと思うのですけれども、ここで改めて、この三遠南信地域の中山間地域には、どのような魅力があるのか、あるいはどのような資源があるのかということをもう一度、確認しておきたいと思えます。その上で、これからどのような方策があるのかということについて議論していきたいと思えます。

### 蒲郡市 稲葉市長

自然環境からすると、私どもの町は海に面してしまっていて、ないものが奥深い緑ということで、やはり中山間部へ行くと、私の目に新しく生き生きとしてくるのは緑と川であると思っております。そういった中で、上流域の皆さんとの交流ということで、私

どもの市の子供たちが田峯の地域の方々と  
の交流をさせていただいておりますが、や  
はりそういったところをお伺いしてわか  
るのは、その地域の人ホスピタリティー、  
人の温かさというものを感じているところ  
であります。それと、やはり周りのゆった  
りとした環境の中で培ってこられた海辺の  
町にはない食材、食文化が私たちにとつて  
は魅力であると思います。

それと、塩の道等々、昔からの歴史のあ  
る地域ということで、伝統芸能も培ってみ  
える。そのような異文化というものも私ど  
もの海の町にはない新しい文化を感じさせ  
ていただける、そういったものが中山間部  
地域の魅力ではないかなと思っております。

#### **くま遊楽亭あそびや 大平氏**

私たちは当たり前だと思っている毎日の  
生活が、実は当たり前でないということ  
を外からいらっしゃった方たちに気づか  
れることがあります。産みだての卵が温  
かいとか、星がこんなにきれいだとか、  
実はそれは全然当たり前でなくて、町  
の子供たち、あるいは小さいときに田  
舎を知らない若者たちはすごく驚き  
を感じます。

だから、もっと交流することによって  
当たりのことが当たり前ではないと気づ  
く、そんな場を私たちは田舎に住む者  
として、提供できたらいいなと思っ  
ています。

#### **豊丘村 下平村長**

飯田下伊那にはリニアの駅が15年後  
に完成して、東京 - 名古屋間が開業  
となります。多分そのころには、三遠  
南信自動車道も全線が開通するの  
ではないかなと思っております。

リニアにしても三遠南自動車道の全  
線開通に向けてもそうですけれども、  
いわゆる時代は変わっても変わらない  
不易なこと、それは、やはり田舎の  
自然と、農業が織り

なす日本人のふるさとの原風景。こ  
れをいかに守り通して都市部に対し  
て発信していくかということが、私  
たちが自分たちの将来に向けて、三  
遠南信自動車道がつながり、リニア  
の駅ができた時、それが私たちの資  
源にもなり、一番の売りになるのだ  
ろうなと思います。

ですから、地域おこしというのも、  
その地域によって戦略が違うのだと  
思うのですけれども、やはり雇用な  
くして定住なしということと言いま  
す。豊丘村ではある程度の雇用は  
いろいろな形で創出できるので、ぜ  
ひとも都市部と手を組みながら、中  
山間地の活性化につながる産業や  
施策を行えるような連携がとれたら  
なとつくづく思っています。

#### **阿智村 岡庭村長**

私のところは、皆さんのような交流  
というよりは、地域の宝を商品化する  
という点で、観光に重点を置いてお  
ります。昼神温泉、ヘブンスそのは  
ら、コスモスガーデン、いろいろな  
観光地がございまして、大体150  
万人ぐらいが観光客としてお見え  
いただいているのですけれども、観  
光と交流というのはかなり違うな  
という感じがします。

中山間地域は、確かに魅力も宝もあ  
りますが、今、急激な人口減少に襲  
われています。高度成長期の過疎化  
よりも急激だろうと。消滅しないに  
しても、消滅に近い状態に中山間  
地域はなっていくのではないかと  
思っています。中山間地域に、観  
光でいくお客さんが来ても、それ  
は観光客として来るだけであって、  
そこにお金を落とすことにより、  
確かに地域の経済は潤うと思いま  
すが、恩恵は観光に携わる人にと  
どまって、そこで生きている人た  
ちが、その地域で生きていくとい  
う力に直接結びつかないというこ  
ろが、観光の持っている一つの危  
険性といえますが、幻想だろうと思  
って

います。

そういう点から考えると、やはり交流というのは、その地域に生きている人たちが、その地域に生きていることを誇りに感じているもの、ことをおすそ分けする。ともにそこで新しい文化や子育てのことを考える、あるいは食べ物の安全を考えるということであると思います。交流を発展させることで初めて、地域に生きていく誇りと覚悟というのが生まれてくると思っているのです。それが交流の持っている力だと思っ  
ていまして、私どもとすれば、観光という問題から交流へどう発展させていくのかということをもう一度考えてみないと、集落の崩壊などは止めることができないのではないかと考えています。

ですから、訪れる皆さんも、多分観光客として来たのでは交流は始まらないだろうと。そこはやはり、子育て、食品の安全、山村の豊かな暮らし、これからの自分たちの暮らし、共通のことを考える、そういうところへ移行していくということが今、必要ではないのではないかと考えておりますが、なかなかうまく実践できていないという状況です。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ただ、やはり受け入れるホスピタリティーは、阿智村にあるのではないですか。

### 阿智村 岡庭村長

観光客をお迎えするおもてなしと、交流という形で迎えるものというのは若干気持ちが変わると思います。そこに自分の地域ですとか山村に生きていく誇り、その誇りの部分が観光と交流との中では若干違ってくるのではないかと私は思っています。

### 鳳来商工会 片桐会長

阿智村の村長さんのお話は、贅沢な悩みだと思えます。本当にうらやましい話です。ホスピタリティーは、来ていただいた方が、旅館の従業員の皆さん、土産物屋さん等の交流の中で自然に感じていただけてるものではないかと思うのです。南信州の皆さんのビジネスの上手なところは、学ばなければいけないなど。そこら辺は皆さんと細かく交流しながら勉強していけるともっといい結果が出るのかなと思っております。

三遠南信自動車道の開通は、思っていた以上にインパクトは大きいです。東のほうからの時間が大変短くなり、東京から3時間半ぐらいです。したがって、今まで商圏でなかった、千葉だとか埼玉、関東の東のほうまで1泊圏になるのだなと実感しております。

新城市でいいますと、奥三河の皆さんはみんな浜松に買い物に行ってしまうので、ただ喜んでいるばかりではなく、流失した買い物客ぐらいの観光客を引っ張り込まなければいけないなと思っております。最近、インターネットのお客が増えていますので、情報発信にもっと力を注いでいかなければいけないなと思えます。

切り口を変えますと、三遠南信は共通の歴史を持っています。武田信玄は、遠州、三河と進軍して、信州に引き上げた経緯があり、まさに三遠南信のちょうど三角を回って生涯を終えているわけです。阿智村あたりで亡くなったと言われてはいますが、私たちは三河で死んだのではないかと考えています。その謎解きも一つの材料になるのかなと思えます。

私は、姓が片桐であります。片桐というのは飯田の奥、松川町やあるいは中川村にルーツがありまして、中川村の片桐さんから片桐サミットをやるよと誘っていただいて、中川村へ出かけています。皆さんと一晩泊まって、膝を突き合わせて話をし

ますと、いろいろなことがよくわかりまして、交流としてはとてもいいなと思いました。

今年は中川村の皆さんが、大挙して鳳来へ来ていただいて行いました。愛知県の片桐副知事さんもお誘いしたところ、「それはいい、私も参加したい」ということでしたが、公務多忙で参加できませんでした。そういう交流も一つの切り口だなと思っています。

### **津具商工会 伊藤会長**

津具にはつく高原グリーンパークオートキャンプ場、設楽町には段戸山の原生林などいろいろありまして、観光の時期はものすごくいいですけれども、それを外れると、ほとんど人が来ない。それをいかに埋めるかということが、中山間地の観光の課題です。

津具商工会では、観光協会と連携いたしまして、山の奥で涼しいときに結活パーティー、ほたる祭りなどをやっています。イベント開催期間は、300人、400人、と集まりますが、それを外れた時期にいかに集客するか、良い方法がどこかにありはしないかと思っています。難しい問題ではありますが、皆さんと良い方法を考えていきたいと思っています。

### **チェーンソーアート in 東栄**

#### **工藤副理事長**

東栄町はチェーンソーアート日本発祥の地と言われていますが、私どもが、2000年に「木と遊ぼう！」として催しました。その時に、ブライアン・ルースというアメリカ人のカーバーから教えを受けまして、2001年の4月にチェーンソーアートクラブ「マスターズ・オブ・ザ・チェーンソー東栄」を結成しました。朝日新聞の全国版に、女性カーバーが安全装備をきちんとつけてカー

ビングしている記事が掲載されまして、これを見た東京の方から、「個性ある山村地域再構築実験事業ということで、国が募集しているのになぜこれを出さないのか」と愛知県庁に情報が入ってきました。

気仙沼ですばらしい昇り籠を彫り、先だって新聞にも載っていましたが、奥三河ビジョンフォーラムにお勤めになっていた城所さんに申請を手伝っていただき、締め切り2週間前に書いた作文がすんなり通りまして、国の補助金をいただいて、全国大会に大きく打って出ました。

そうしたら我々の団体プラス近辺のカーバー、ログハウスをつくっているログビルダーなど自己流でやっていたという人が参加してくれまして開催することができました。

あるものから何かを起こしたいということから始まり、第6回目には世界大会を開催しました。14回目となる再来年は、3回目の世界大会として行おうということで、今、若い人たちが計画しております。

これは交流をしようと思って始めたのではなくて、東栄町にあるものを利用して、活かしてみようと始めたわけでございます。どこの町村も山の木が大切なことは分かっていますけれども、今、お金にならないために放ったらかしになっている。これを何とかしようというのが根羽村さんの柱50本進呈政策であり、設楽町さんが、名古屋の木材市場を誘致して、山もとで木を選木して、山主さんに運賃の負担をできるだけかけないようにやっているのではないかと推察しています。山主さんに対して何かしないと、これは集中豪雨が来ると財産と生命を危険にさらすところではない、失う現状です。いつ起こるかわからない有事のために国防費を使うばかりでなく、どうか国土崩壊になる前に、こちらへも国防費をください、中山間地に目を向けてくださいと、

バッジをつけた先生方だとか、お役所をお願いをしているところです。

そういうことで、豊かな森、豊かな水、きれいな水を守るためにチェーンソーアートをやるにもエコオイルを使って大会をやっていると、こういった心遣いもしています。

## コーディネーター /

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

今、それぞれの地域の方から、それぞれの地域の資源、これはものという意味もあるし、人という資源という意味もあるし、形に見えない資源もありますが、いろいろなご発言があったかと思います。

阿智村の岡庭村長さんのお話で、ただ観光客を呼んでいても、その地域の維持ということにはつながらないというご発言が非常に頭に残っております。そういった意味では、この地域の中での人の交流を通して、いかに活力を高めていくかというあたりが重要な気がしています。もちろん、三遠南信自動車道などの基盤を整備することが最低限の条件だと思いますけれども、今までの話を聞いた中で気になった点であります。

今、それぞれの地域の資源ということでお話をいただきましたが、これからは、その資源を当然ながら活かして、三遠南信地域連携ビジョンの中にある、いわゆる上・下流の交流を促進していく、そのことによって、この中山間地域の生活環境にどうやって結びつけていくかというところが一番肝心なところになるかと思います。

その辺について、今後のこの地域の交流促進策としまして、具体的にどんなものが考えられるのか、あるいはそういった取り組みを進めていくための連携の体制というのはどういった体制が必要なのかという点について、ご意見をお伺いしたいと思いま

す。

### 飯田市 牧野市長

中山間地域の生活環境の向上をどのような形でこれから考えていくかということですが、やはり様々な形の連携があると思います。先ほどお話があった観光につきましても、これも一つの連携と言えなくもないわけでありまして、やはり、実際に住んでいる地域の皆さん方の生活、あるいは環境といったものを向上させるということも考えていくと、単に、あるものを見せてというところだけではなくて、やはりその課題も含めて考えていけるような、そうした取り組みというのが非常に大事になってくるかなと思います。

飯田市では、そうした課題をどう解決していったらいいかという中で、大学連携に力を入れております。これは南信州の体験教育型のグリーンツーリズム、エコツーリズムといたしまして、平成8年からの16年間、この南信州を体験した子供たちの累計は24万人以上と広がってきたわけですが、こうしたベースとなる取り組みの上に、さらにもっと学びの要素を入れる形で、大学のフィールドスタディーを4年前から始めております。今年も9月末までに全国16大学ぐらいから460人以上の大学生、大学院生がこの地域に学びに入っているという状況です。

これは、この地域の課題を実際に学んでもらい、その課題解決に向けた提言をその中でやってもらうというように非常に連携を強めていまして、コーディネーターの大貝先生の豊橋技術科学大学にもワークショップをやっていただいたり、サテライトラボを飯田に置いて、定期的に地域に入っていくような取り組みもしていただいています。

みんなでこの地域の課題というものを考

えていく、そうした土壌を培っていくということは、中山間地域のこれからを考えていく上では重要になってくると思います。

もう一つ、外からの交流の話がたくさん出ていましたが、中山間地域の中での交流というのも非常に重要だと思っています。特に、世代間の交流。飯田の竜東中学校区では、大人と小中学生の語り合う会というのが開催されましたが、これは、大人と子供が平らな関係で、子供たちは将来の夢を語り、大人たちはこれまでの経験を語るという中で、それぞれの思っていることを知り合う、学び合うというものです。

よく考えてみますと、隣近所のつき合いで子供たちと会っても、その子供たちが将来何になりたいかなどということはほとんど知らないと思います。逆に子供たちは、隣のおじさんやおばさんがどんな経験してきた、どんなことをこれまでやってきたかということをおそらく知らない。そうしたことを、地域の中で学び合うことによって、まさに先ほど岡庭村長さんがおっしゃっていましたが、その地域に住む誇りや価値というものが確認できるようになるのではないかなと思っています。

最後にもう一つ、やはり安心・安全ということを手挙げておきたいと思っています。これは、防災体制の構築ということになりますが、やはり最近の風水害や、あるいは基調講演で大西先生が話されたような南海トラフの話を考えてみますと、三遠南信地域全体でもう一度、東日本大震災を踏まえて、どういった形でこの安心・安全というものを考えていくか。特に、この中山間地域における安心・安全というものをもう一度見直しておくということは非常に重要なことだと思います。

#### **設楽町 横山町長**

これからの交流というか、具体的な動き

をどのような形でというのが、まさに一番の課題であり、今までもここに向けて、みんなで視点を合わせてやってきたことに尽きるのではないかなと思っています。

やはり土地柄というか、地域の条件が違うわけですが、その地域に住む人たちの強い思い入れ、私たちの力で今やれること、無理をせず日常生活の中でこれだったらできるなというようなことに意識を高める中で、自然体の中で自分ができるところを見出して積極的にこれを進めていく。その中で仲間をつくり、地域間みんなでもとめていい方向へ持っていける、そうした形をみんなでもつくり上げていくことが必要ではないかなと思います。

そうした中で、自然ですとか、文化ですとか、地域にある材料をどう活かしながら、継続しながら、多くの人たちに情報発信をしていけるように組み立てていくか、そうしたところをこの三遠南信地域共通の認識の中で、みんながそうした方向へ持っていくことが必要ではないかなと思います。

地域力というか、地域の人たちの思い入れ、そうしたものを強く持ち続けていくことが大事なことだと思います。

#### **松川町 深津町長**

私は、この「住」、住む、生活、それから暮らし、生き方というものがこれから大事なのではないかなと思ひ、この分科会を希望しました。それは、昨年3月11日が大きな起点になっています。東日本大震災は、明治維新、太平洋戦争、それに続く大きな国の出来事であって、これからの人間のあり方、生活の仕方、生き方というものを大きく変革させる出来事だったととらえております。そういう中で、ゆったりとした時間、おもてなし、そういった本来の人の生活というような言葉が大平さんから出ておりましたけれども、そういう考え方に大き

く変革させる出来事であったと思っています。

ずっと大量生産、大量消費という形で進んできた世の中が、やはり付加価値をつけて、ナンバーワンよりオンリーワンという言葉がありますけれども、そのような形で地域というものを見直していかなくてはならないのではないかなという思いがしております。

それから、もう一点、「地財、地域の宝を再認識、再発見し、発信していきます」というのが私の町の一つのテーマです。これは自分自身の公約なのですけれども、先ほど、当たり前が当たり前ではないというような言葉も言われておりましたが、もう一度見直してみると、自分たちの住んでいる地域というのがどんなところであるか、どんなに素晴らしいところであるかというのを時々思い知らされるときがあります。住民の皆さんが、やはり自分たちの住んでいる地域をまず好きになるということが第一だと。自分たちの地域をもう一回再認識し、再発見するということが大事ではないかなと思っています。

今年度、湧水を募集したところ、8カ所出てまいりまして、今度、それぞれの水を持ち寄ってお茶会をやります。この発端は、昨年行いました小中学生のミニ議会の中で、「私たちの山の中にはいい木、おいしい水がわいています。ああいった水をみんなにも知ってもらいたい」という小学生の発言がきっかけでございました。防災の面からも、水道水が止まった場合には、こういった場所に湧水がありますよということにつながりました。

それから、人口減少時代の中で、いかに地域の活力、元気を生み出していくかという一つの要素に、交流人口をふやしていきたいという思いを非常に強く持っております。人が動くこと、人が動くともものが動き、

お金も動き、そして、情報が動く。とにかく人が動くこと、それは、よそから来る人たちもそうですし、同じ地域の中に住んでいる人たちもやはり動くということ。これを非常に大事に考えております。

情報発信では、昨年6月から、まちづくり広報参事に一般の方を雇用しています。今年からは、常勤ではありませんが広報宣伝職員ということで、地域の中のイベントや祭りや会議といった情報収集を専門に飛び回っています。それらを、ユーチューブ、フェイスブック、ツイッターなどで発信していきたいなど、そんな思いを持っております。

先日、町の中をもっと知ろうと商工会の女性部に投げかけまして、参加者20人程度と行政と一緒に町内を回りました。そうすると、景色のいいところ、それから、地域おこしで整地されたミニ公園だとか、とにかく自分たちのところを知って、そして、自分たちのよさを知って発信をしていく。そのようなことに努めているのが現状でございます。

#### **森町商工会 山本会長**

私のところは、中山間地の山が多い町であります。新東名の開通によりインターチェンジやパーキングエリアができました。そういったことで、最近、町の中に今まで見られなかったナンバーの車がたくさん走っています。いろいろなお店を回りますと、3割くらいの人が増えていると。大変ありがたい話だと思います。

森町は、次郎柿の原木がある唯一の町ということで次郎柿やトウモロコシなどいろいろな産物がございます。そういったものを今までの情報発信の中で皆さん方が知っていて、新東名開通を機にそれを求めてくる方が多くなったということもあります。2年後にはスマートインターチェンジをつ

くるということで、今後が非常に楽しみであります。

今まで多くの中山間地対策事業がありましたが、この高速道路一本が中山間地対策になるのではないかと考えております。そして、流入客が多くなることによって、地域の活性化ももちろん生まれるわけですが、やはりそれだけでいいわけではないかと。町であってもできるもの、そういったいろいろな催しものを作り、ホームページ等で情報発信することによって、さらに交流する人口を増やすことができるのではないかと。やらなくてはだめということが第一ではないかなと、先ほど皆さんから聞いている話の中で、私たちももっと、今まで以上に頑張らなくてはいけないのだ、このように感じておりました。

#### **コーディネーター /**

#### **豊橋技術科学大学 大貝教授**

今日は最初に、それぞれの取り組み事例についてご報告をいただいて、その後、改めてこの地域の資源であるとか、魅力ということについてご発言をいただきました。その上で最後に、これからどんなことをやっていけばいいのかという方策等についてご発言をいただきました。幾つか重要な指摘もあったかと思いますが、基本的なところとして、やはり今回、三遠南信自動車道あるいは新東名が開通したことによる人の入り込み、人が増えたということはまず確実に間違いのないことだと思います。

そういった意味でいえば、地域の基盤整備がいろいろな意味で時間を短縮させて、この地域へのアクセスをより高めているということだと思います。そういうことを前提にして、いわゆる外からの人が入ってくる意味での交流という意味と、この地域の中での交流という、交流にはそういう二つの側面があるということが分かってきたか

と思うのです。そういったことを踏まえながら、この中山間地域の生活環境を向上させるためのさまざまな施策を検討していく必要があるだろうということが言えると思います。

それから、この地域の持っている資源を、あるいは非常に魅力的な取り組みを、この圏域内外への情報発信をどうしていくか、この体制や方法といったものをもっと整備していく必要があるだろうと。これが2点目になるかと思えます。

3点目として、これは特に飯田市長さんからご発言がありましたが、この中山間地域の生活を支えるという意味においても、安心・安全な地域という意味においては、防災体制をこの三遠南信地域の中でいかに広域連携という形で強化していくか。これは非常に重要なテーマだと思います。そのために相互に連携していくということも一つの重要なポイントになるかと思えます。

#### **小坂井商工会 丸山会長**

高速道路ができて交流とか人の流れが進んだと、こういうご発言の中で、交通の便がよくなることによって、地域の今までの絆とか、そういうものが薄れてしまわないように、地域の絆をしっかりと守らないと、外のほうに交流が出てしまって、過疎化が一層進んでいくようなことにならないように努めることが大切ではないかと思えます。飯田市長さんにお聞きしたいのですが、20年ぐらい前、昭和62年当時、三遠南信は、高速道路の促進一本で、この山とか住とかというような議論は余りなかったような気がします。飯田は、豊田や名古屋が割と近いと思うのですけれども、この三遠南信にどのような期待を持ち、どのように進められるのか、お考えがあればお聞きしたいと思えます。



## **飯田市 牧野市長**

20年の歴史がある三遠南信の地域連携です。これを大事にしていきたいという非常に強い思いがあります。特に、風土とか、文化といった部分で共通的なものを感じます。県境域の北遠地域、奥三河、南信州の中山間地域というのは、県境ではありますが、非常に近い関係があって、連携して、この文化を創造してきたと思っています。

この天竜川、豊川の流域圏というものは、この地域に住んでいる人にとって、生活と切っても切り離せない、そうした中で今の三遠南信の地域連携が進んできていると、私は認識していますので、こうしたものはこれからも大事にしていくことが、この地域、圏域全体にとってプラスになっていくと思っています。

## **コーディネーター /**

### **豊橋技術科学大学 大貝教授**

小坂井商工会長さんから話のありました、アクセスがよくなれば、逆のマイナス効果もあるのだということで、それは逆に言えば、地域の資源をいかに活かして人を呼び込むかという意味にもなるかと思えます。その点も含めて報告させていただきたいと思えます。

皆様のご協力により、中身のある議論ができたのではないかと思います。どうもありがとうございました。以上をもちまして、「山・住」分科会を閉会いたします。